



CSR報告書

Corporate Social Responsibility

2017

CSR報告書について

世の中では少子高齢化が進み、深夜営業をやめたり、営業自体をやむなく停止する店がでてきたり、働き手の不足が深刻化してきています。一方で過労による精神疾患の問題なども増え、労働環境に対する世の中の関心が高まっています。政府は“働き方改革”を推進しており、男性も女性も、若者も高齢者も、いろいろな事情をかかえた人たちが継続して働いていけるように、日本の企業や暮らしを変えようとしています。当社でも今期新たに、働き方を変化させるためのプロジェクトをスタートさせました。多様な働き方を取り入れ、いろいろな人たちが一緒に働き、「明日もまた来たいと思える会社」作りを目指しています。私たちは昨年90周年を迎えましたが、継続とは変化していくことであり、変化していく中でも、誇りと創意と感謝にあふれた人間集団であり続けたいと願っています。この報告書は、活動の一部を限りある紙面で簡潔にまとめています。内容についてもっと詳しく知りたい場合は、遠慮なく当社社員にお声かけください。過去の報告書は当社ホームページ上でも閲覧できるようにしてあります。どうぞお気軽にご意見、ご感想等をお聞かせください。

<http://www.kinyosha.co.jp>

対象期間

データの集計期間は、2016年4月から2017年3月です。活動の報告に関しては、2016年4月から2017年5月までを対象としています。

対象範囲

活動内容に関しては株式会社金羊社及びグループ会社の組織全体を対象としています。環境負荷データに関しては、本社及び御殿場工場における活動を対象としています。宇都宮工場、大口工場については、現在も工場や設備の増強中ですので、次回の報告書で報告範囲に含める予定です。

参考にしたガイドライン

環境報告ガイドライン (2012年版)
GRI サステナビリティ・レポート・ガイドライン (G4)
メディア・ユニバーサルデザインガイドライン

発行時期

2017年7月 次回発行予定 2018年7月

Contents

| | | | |
|--|----|---|----|
| 会社概要 | 1 | 緊急事態に備えてます | 16 |
| トップメッセージ | 2 | いろいろな人のために | 17 |
| インセプション 2020 コーポレートガバナンス | 3 | 印刷のいろはフェスタ エフエム御殿場 | 18 |
| 印刷機能の強化 デジタル印刷認証の取得 | 4 | コミュニケーションの促進 資格取得の推進 | 19 |
| 軟包装衛生協議会工場認定取得 えるぼし認定の最高段階取得 くるみん認定取得 | 5 | 安全に働ける職場にしたい いきいきと働ける職場作り | 20 |
| オフセット印刷 | 6 | 環境管理 品質・環境・食品安全方針 | 21 |
| フレクソ印刷 | 7 | 工場全体をグリーン化 | 22 |
| デジタル印刷 CRIOS | 8 | 環境に配慮した紙の使用 | 23 |
| イベント事業 | 9 | 事業活動による環境負荷の把握 | 24 |
| WORLDLIBRARY FOCUS | 10 | 環境活動の計画と実績 | 25 |
| 美しい製品を作るために 安全な製品を作るために | 11 | 空気を汚さない | 26 |
| ミュージックジャケットギャラリー | 12 | 省エネルギー | 27 |
| みんなでカンボジアに寺子屋をたてよう! プロジェクト トキの野生復帰支援 情報セキュリティ | 13 | リサイクルの推進 | 29 |
| MUSICSHelf 日本パッケージデザイン大賞「金賞」受賞 ステークホルダーとのコミュニケーション | 14 | 振動・騒音を抑えたい 廃液の管理 廃棄物の管理 | 31 |
| コンプライアンス 地域をキレイにしたい | 15 | グリーン購入の推進 環境データ あとがき | 32 |
| | | 環境関連の歴史 | 33 |

会社概要

| | |
|------------|---|
| 社名 | 株式会社 金羊社 (きんようしゃ) |
| 代表取締役会長 | 浅野 健 |
| 代表取締役社長 | 浅野 晋作 |
| 資本金 | 1億6千7百万円 |
| 社員数 | 290人 (平成29年4月1日時点) 男性207人 女性83人 (内パート18人) |
| 2016年度総売上高 | 7,350百万円 |
| 創立年月日 | 1926年 (大正15年) 9月30日 |
| 業務概要 | オフセット印刷、フレキソ印刷、デジタル印刷、プリプレス工程全般、製本、紙器加工、表面加工、オリジナル製品の企画・製造・販売、内装工事、外装工事の企画、設計・施工管理 イベント、展示会、セールスプロモーションの企画、実施、運営及び管理、ソフトウェア開発、インターネットその他の媒体を活用した通信販売 |



本社

〒146-8577
東京都大田区鵜の木二丁目8番4号
TEL.03-3750-2101(代表)
FAX.03-5482-7033



宇都宮工場

〒321-0905
栃木県宇都宮市平出工業団地 17-2
TEL. 028-683-0877 (代表)
FAX.028-683-0878



御殿場工場

〒412-0047
静岡県御殿場市神場二丁目1番地
TEL.0550-89-3434(代表)
FAX.0550-89-5698



大口工場

〒480-0141
愛知県丹羽郡大口町上小口二丁目133番地4
TEL. 0587-96-6703 (代表)
FAX.0587-96-6703

グループ会社

株式会社ワールドライブラリー

〒146-0091
東京都大田区鵜の木二丁目8番4号
TEL.03-6684-0845 (代表)
FAX.03-3750-2284

株式会社ディー・ティー・ジャパン

〒102-0073
東京都千代田区九段北1-9-16 九段KAビル5F
TEL. 03-5212-5560
FAX. 03-5212-5561

取得している認証、認定

本社・御殿場工場

ISO14001 (環境管理)
ISO27001 (情報セキュリティ)
ISO12647 (工程管理の国際規格)
FSC® COC 認証 (森林認証)
JAPAN COLOR 認証制度
(標準印刷認証、マッチング認証、デジタル印刷認証)
日印産連グリーンプリンティング工場認定

大口工場

軟包装衛生協議会認定工場

全社

くるみん認定
えるぼし認定 (三段階目)

Top message



株式会社 金羊社
代表取締役社長

浅野晋作

今回も、環境に係る活動に留まらず、広く当社が社会の一員として日頃から実践しております諸活動をCSR報告書として纏めました。

当社は、お蔭様を持ちまして昨年創業90周年を迎えることが出来ました。これも偏に皆様の永年に亘るご支援の賜物と厚くお礼申し上げます。

当社は、この90年の歴史に立ち止まることなく、また、当社を取り巻く外部及び内部の著しい環境の変化に柔軟に適応すべく、今期から3ヵ年の中期経営計画である「インセプション2020」を策定し、新たな目標に向けスタートしました。当社が有する「強み」をコア・コンピタンスとして明確にし、良き伝統は継承しつつ変えるべきところは大胆に変革することを社員一人ひとりが認識するとともに全社一丸となり目標を必達することで、広く社会から信頼され必要とされる会社を目指します。

特に、製造分野については、著しい環境の変化や新たな規制に柔軟に対応し、デジタル印刷機の導入による小ロット高効率生産や内製化推進などの「当社独自のスマートファクトリー化」を推し進める所存です。また、引き続き、VOCやCO²排出量の少ない環境に配慮した水性インキを使用したフレキソ印刷事業については、当社の次世代パッケージ印刷システムの柱のひとつとして捉え、より一層強力に推進を図っていく所存です。

当社は、今後とも印刷を通じて社会に貢献して参ります。

引き続き、皆様のご指導ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

インセプション2020

当社では3年ごとに将来の姿を明確にすべく、中期経営計画を策定しています。今期からは、題名を「インセプション2020」とした計画を遂行中です。

企業戦略

MISSION

- ・全社員が「明日も会社に行きたい！」と思う企業になること
- ・企業活動を通して世界の人々の笑顔を創出し、明るい社会の実現に寄与すること
- ・常に正直な仕事をし、お客様から信頼される企業であり続けること

VISION

- ・圧倒的な競争力と独創性を持った事業品質の構築
- ・社員一人ひとりが変革を実感し心からやりがいを持てる経営品質の構築
- ・社会とマーケットに強烈なインパクトを与え、消費者にとって豊かなレガシー（遺産）を創造する



VALUES

- ・正道を歩み続けること
- ・常に変化を機会と捉え、自らを革新し続けること
- ・多様な価値観を尊重すること

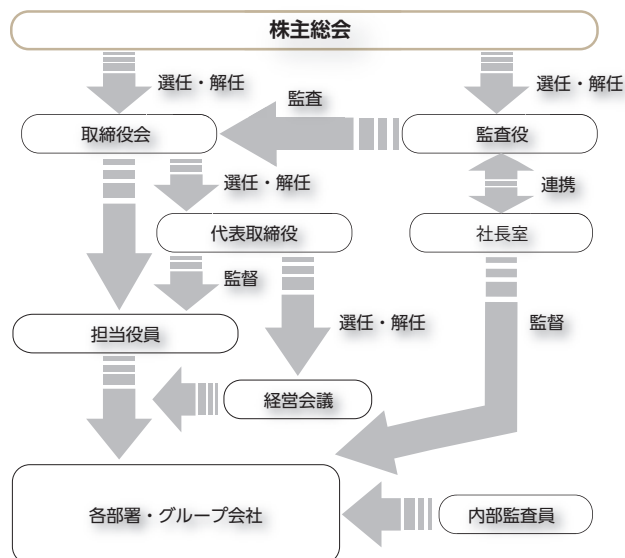
戦略構想

当社のリソースを線や面で捉え、各事業及びそのマーケットに対するソリューションを展開するために、事業戦略、生産戦略、組織戦略の3つの柱で新戦略を実行中。

コーポレートガバナンス

当社では定期的に取り締役会を開催して経営上の重要な意思決定を行っています。

あわせてグループ会社を含めた業務遂行上の意思決定機関として経営会議を定期的を開催しています。



印刷機能の強化

世の中の需要の変化に対応すべく、新たな印刷機を導入し対応の強化を図っています。

御殿場工場

デジタル印刷機 HP Indigo10000 を 2016 年 7 月に導入し、極小ロットへの対応や、ナンバリングなどのバリエブル印刷への対応が可能となりました。さらに 2017 年 4 月には Indigo12000 にアップグレードし、用紙搬送経路のセンサー精度が向上し黒紙への印刷や、印刷済みの物に対しての追い刷りが可能となりました。2017 年 1 月には新たなオフセット印刷機ハイデルベルグ XL75 アニカラーを導入しました。これはインキ調整がいらす、素早く安定した印刷環境を実現するため、標準的な色調の印刷物において威力を発揮します。ジョブの切替えが早いため、電力の削減、用紙予備の削減も期待できます。



Indigo12000



アニカラー



Indigo20000

大口工場

2017 年 1 月にデジタル印刷機 HP Indigo20000 を導入しました。これはロール状のメディア対応のデジタル印刷機で、軟包装製造での小ロットやバリエブル印刷への対応が可能になりました。

本 社

2017 年 5 月にデジタル印刷機 HP Indigo5500 を最新機種 Indigo7800 に入れ替えました。これによりスピードが 1.8 倍に向上し、オンデマンド性が向上。透明インキを使用した隆起印刷やエンボス印刷といった特殊な付加価値印刷も提供できるようになり、お客様への提案の幅が広がります。



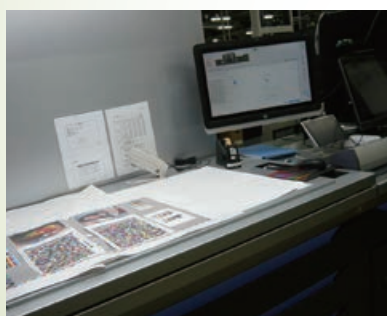
Indigo7800

デジタル印刷認証の取得

Japan Color 認証シリーズの新しい認証である「デジタル印刷認証」は、デジタル印刷機のメンテナンスと数値管理等によって、高品質の印刷物を安定的に作成できる運用能力について認証されます。



デジタル印刷機の色調整



当社では、3 サイト（本社、御殿場工場、大口工場）での取得を目指し、2017 年 5 月 29 日に本社と御殿場工場の 2 サイトで認証取得をしました。大口工場は、6 月に認証審査を受ける予定です。

デジタル印刷機を所有している全ての工場での認証取得をすることは、当社のデジタル印刷技術の向上に寄与するだけではなく、Japan Color 基準の印刷依頼があった場合でも、色品質の安定した印刷物をスピーディーにお客様にご提供することが可能となります。

トピックス TOPIC

軟包装衛生協議会工場認定取得

大口工場は、2016年9月に軟包装衛生協議会（略称：軟衛協）の工場認定を取得しました。（認定工場登録第262号）

軟包装衛生協議会とは、軟包装材料の製造工程において、食品・医薬品並みの衛生管理が必要であるとの観点で設立された団体です。衛生管理に関する一定の基準を設け、この基準に基づく工場を認定する制度を運用しています。

軟包装材は人の健康に影響のある内容物を直接包装する為、認定を取得するためには、他の工場ではないような管理手法（衛生管理）を行います。例えば清掃や場内環境（塵埃・微生物）にもそれぞれに記録等の要求事項があるため、工場全員が一丸となり

ルール決めや手順書を作成しました。

苦労はしましたが、全員が一生懸命に取り組んだので、更に工場全体の衛生管理において意識が高まりました。今後も継続し、良い工場環境を保っていきます。



認定証

トピックス TOPIC

えるぼし認定の最高段階取得

2017年2月に「えるぼし」（三段階目）認定を取得しました。

「えるぼし」認定とは、女性活躍推進法に基づき行動計画の策定・届出を行った企業のうち、「女性の活躍推進に関する取組の実施状況等が優良な企業」を都道府県労働局への申請により、厚生労働大臣が認定する制度です。取組み状況によりランクがあり、①採用、②継続就業、③労働時間等の働き方、④管理職比率、⑤多様なキャリアコースといった5つの項目のうち、どれだけ基準を満たしているかが主な評価基準となります。

当社は5つの基準全てを満たし、印刷業界としては初の最高位である「三ツ星」を取得しました。



申請を担当した齊藤さんと土井さん



トピックス TOPIC

くるみん認定取得

2016年8月に「くるみん」認定を取得しました。

「くるみん」認定とは、次世代育成支援対策推進法にもとづき「仕事と子育ての両立の推進」に関する行動計画の策定・届出を行った企業のうち、目標を達成するほかに一定の基準も満たした企業を「子育てサポート企業」として厚生労働大臣が認定する制度です。

認定は行動計画の目標を達成するごとに申請でき、認定された回数分マークの下に★印が増えていきます。当社はまず一回目の認定です。今後は★の個数を増やしていくとともに、より高い基準をクリアすることにより認定される「プラチナくるみん」も目指していきます。



良い製品・サービスを提供するために

お客様にご満足いただける製品をお届けするために、様々なソリューションを用意しています。

従来からのオフセット印刷に加え、フレキソ印刷、デジタル印刷など用途に合わせて最適な印刷が可能です。印刷媒体も紙、フィルム、タイル、布など何にでも印刷できるよう体制を整えています。またイベントへの対応や、ECサイトの運営などの様々なサービスにも取り組んでいます。

オフセット印刷

当社の、主力工場である御殿場工場では、オフセット印刷を行っています。当社が創業初期より手がけてきた印刷方式で、高度なノウハウを蓄積しています。現在はCTP版を使用した枚葉のUV乾燥方式のオフセット印刷をメインとしています。枚葉オフセット印刷の特徴として多品種小ロットの印刷に適しているということが上げられます。当社がトップシェアを誇るAV関連製品は、多様な仕様で、かつ小ロットでの発注が多いため、この印刷方式を採用しています。

グラビア印刷のような、強い溶剤を必要とせず、インキから揮発するVOCもゼロに近く、また印刷予備も少なく無駄な廃棄物を出さない、環境にやさしい印刷方式です。

最近では、UV乾燥装置も進化しており、従来のメタルハライドランプ、水銀ランプのみではなく、省電力タイプのハイブリッドUVランプやLEDUVランプ等が開発されており、御殿場工場においても、オフセット印刷機2台をハイブリッドUV・LEDUV化をし、1台をデジタル印刷機に置き換えを行ない、さらなる省電力化を進めています。

オフセット印刷は、繊細な色調のコントロールが可能であることもあり、印刷物の美術品としての価値を高めます。このことはお客様の色調に対する厳しさも向上させ、時として再生産を余儀なくされることもあります。印刷機は、とても繊細で、温度・湿度の管理や衛生管理が品質に影響を及ぼすこともあります。そのため、御殿場工場では、定期的な5S巡回を実施し、その結果を小集団グループの改善活動に結びつける事により、品質の向上はもとより、オンデマンド性の向上、環境対応、セキュリティの向上にも取り組んでいます。



オフセット印刷機



活動の掲示

フレキシ印刷

フレキシ印刷とは、印刷版に柔軟（フレキシブル）な弾性のある版（樹脂とゴム版）を使用する印刷方式で、インキ供給に金属製のアニロックスロールを使用することを特徴としています。インキは水性インキを使用するため、ほとんどVOCの発生がなく、臭いもほとんどない、とても環境にやさしい印刷方式です。昔は、ダンボールなどへの印刷に用いられていましたが、近年では網点の印刷品質が向上し、食品の包装や飲料のラベルなどへの利用が増えています。

2013年に開始した小山工場では、SOMA製フレキシ印刷機1台、検反機1台を設置。トーホー加工株式会社と連携し、飲料水の巻きラベル、おむつチャック部分不織布印刷、マスキングテープ、養生シート、角底紙袋印刷など様々な製品を印刷していました。

次に稼動開始した大口工場では、大和グラビヤ株式会社と協業し、F & K製フレキシ印刷機1台、ロトメックノン溶剤トラミネーター1台、検反機1台、FFGS製フレキシ彫刻機1台を設置。スーパーマーケットPBブランド、コンビニ流通系菓子袋を、200アイテム近く製造してきました。

フレキシ印刷の主力工場となる宇都宮工場は、2014年10月よりSOMA製フレキシ印刷機1台、スリッター機3台で稼動を開始しました。2016年1月には、不織布印刷に適したオプションを装備したW & H製フレキシ印刷機1台を導入。2016年5月には、大口工場で稼動していたF & K製フレキシ印刷機1台、小山工場で稼動していたSOMA製フレキシ印刷機1台を宇都宮工場に集約して、フレキシ印刷機4台体制へと強化しました。株式会社廣済堂様との連携により、大手サニタリーメーカー様の透湿シートを、現在は、月産1,000万メートル印刷後、スリットして納品しています。

大口工場では、新たなビジネスモデル構築に向け、株式会社DP2（販売会社）と連携し、ネット受発注（スマパケ）による軟包装デジタル印刷機を利用した短納期対応、小・中ロット生産（2,000m以下）、在庫レスをターゲットにした軟包装ビジネスを展開しています。



大口工場



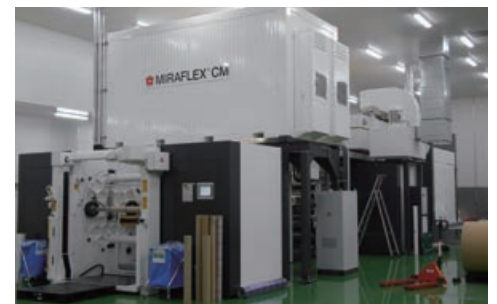
PB 商品パッケージ



軟包装デジタル印刷機



宇都宮工場



フレキシ印刷機



フレキシ彫刻機

デジタル印刷

2012年4月に本社1Fへデジタル印刷機 HP Indigo5500 を導入し6年目を迎える今期、新に Indigo7800 へ入替を行いました。前期は御殿場工場へ Indigo10000 (現 Indigo12000) を導入、更に大口工場へロールタイプの Indigo20000 導入と、各拠点に最新のデジタル機が設置されました。本社においては枚葉・大判印刷・カッティングなどの各種デジタル印刷機を用い、試作・量産ともにオンデマンド対応を行っております。地の利を活かしてショールームの役割も果たし、様々なニーズにお応えしております。これらの事例から各工場のデジタル印刷機へと広がり、デジタルならではの可変印刷、パーソナライズされた付加価値印刷へと展開して行きます。今後の金羊社デジタル印刷にご期待ください。



ワイドフォーマットで印刷した製品



Indigo で印刷した製品

CRIOS

2015年度下期よりスタートした新サービス「CRIOS」。2期目となる今期は、9月にイタリアで開催されたタイルの国際見本市チェルサイエへの視察からタイルトレンドを吸収、2017年2月には、各タイルメーカーに先駆け、海外視察を踏まえたオリジナル柄を100種類以上ラインナップに追加。また、新たなオーダーメイド建材として、特注タイルカーペットの販売をスタートしました。

これら新規のコンテンツを加え、3月にビッグサイトで開催された、「建築・建材展 2017」に出展。会場では、500社を超える設計・インテリアデザイン・商社などと情報交換を行い、3月の問い合わせ件数は単月で50件を超えるなど、着実に業界での認知を獲得しています。

今後は、販売店戦略による全国への営業網の拡充を図るとともに、コンテンツ・プロモーション・品質の更なる向上と、継続した案件の獲得を目指します。



建築・建材展 2017 CRIOS ブース



新メディアとしてフルカラータイルカーペットを開始



空間全体の特注制作提案パース



イベント事業

イベントクリエイティブ部では、創業 90 年で培ったエンタテインメント業界のネットワークと人脈を活用し、イベント事業を展開しています。

金羊社主催イベントとして、今秋からシニア層と地域の活性化を目的としたシニア向けエンタテインメント「同窓会コンサート」の全国ツアーを開催予定です。

『2020 年東京オリンピックを元気に迎えよう！』を合言葉に全国のお年寄りに笑顔と元気をお届けします。

他にも長野県松本市で開催される「りんご音楽祭」や、クリスマスの時期に横浜赤レンガ倉庫で開催される「毎日がクリスマス」などの音楽フェスでは裏方となりイベントサポートを行っています。

また、地域に根ざした企業として大田区や大田区産業振興協会、大田区文化振興協会、大田区商店街連合会等と連携し、地域活性化と大田区のプロモーションサポートを行っています。7月に開催される「大田区加工技術展示商談会」や10月に開催される「おおた商い観光展」では企画立案と制作・運営の代行を行っています。

当社の強みは、イベントの企画・制作・運営、アーティストブッキング、WEBサイトの制作、イベント現場の製作物、更に販売グッズの製造などをワンストップで手配できる事です。



りんご音楽祭



毎日がクリスマス



おおた商い観光展



大田区加工技術展示商談会



WORLDLIBRARY

『WORLDLIBRARY』（ワールドライブラリー）は絵本を通じて、子ども達に世界の国々を紹介する新しい取り組みです。定期的に、幼稚園、小児科、カーディナーなどへ厳選された世界の絵本をお届けし、同時に回収まで行うレンタルプログラムです。

レンタル商品としての活用が難しくなった絵本は、NGO や被災地復興支援団体を通じて厳しい環境下で生きる子ども達に寄贈しています。

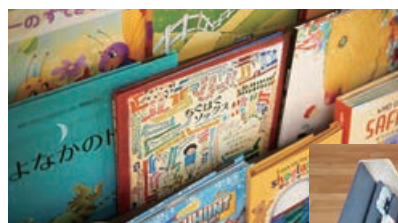
2020年東京オリンピック開催に向けて、世界の多様性を学ぶ、国際理解を深める機会の増加が見込まれます。また学校教育の場においても、早期英語教育が進み、言語や文化に対する理解を深めることが重要視されています。

絵本は世界中の子どもが読める（感じる）ことのできる共通言語です。

海外の絵本を通じて世界と出会い、世界を知るきっかけを提供していきます。

このたび『WORLDLIBRARY』が、「第10回 キッズデザイン賞」（主催：キッズデザイン協議会、後援：経済産業省、消費者庁）を受賞いたしました。今回の受賞を通じて、『WORLDLIBRARY』のより一層の認知拡大を目指すとともに、キッズデザインが目指す社会に貢献できるものづくり、ことづくりに今後も努めてまいります。

<http://www.worldlibrary.co.jp/>



WORLD
LIBRARY



FOCUS

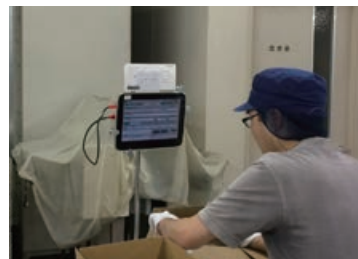
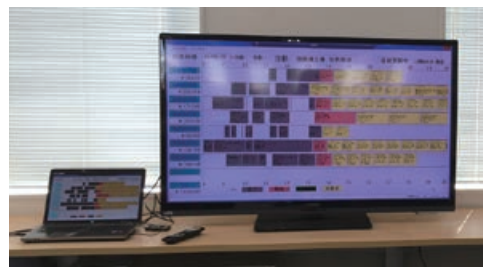
FOCUS シリーズは、当社が開発した印刷・加工業向けの基幹システムで、2016年4月よりパッケージ販売を開始しました。

当システムは、基幹システムを中心に、印刷機稼働管理、加工機稼働管理の3つのシステムで構成されています。（個別導入も可能）

最大の特徴は、タブレット端末とRFIDカードを用いた工程管理機能と、生産現場の進捗状況の「見える化」が実現出来る事です。

作業者はRFIDカードの「挿入・抜取」というシンプルな動作で実績を記録することが可能となるとともに、実績の記録ミス、漏れ等が減少します。これにより遠隔地からでも生産現場の状況をリアルタイムで把握出来ます。

FOCUS シリーズ



ジョブの進捗が遠隔地から確認できる

美しい製品を作るために

お客様に喜んでいただける美しい印刷物を作るために、各種認定の取得などさまざまな取り組みをしています。

ISO12647

2008年4月に印刷会社としては国内で初めてPSO認証(process standard offset)を取得しました。これは印刷の国際規格であるISO12647-2への適合を審査するものです。この認証により、海外でも印刷品質を証明することができます。



数値による色調管理

JAPAN COLOR

Japan Color 認証制度とは、印刷品質の安定と生産性向上のための認証で、「ISO 準拠ジャパンカラー枚葉印刷用 2011」をターゲットとした制度です。御殿場工場で「標準印刷認証」「マッチング認証」を、本社と御殿場工場で「デジタル印刷認証」を取得しています。

NPO法人印刷OEM研究会

印刷OEM研究会では、印刷品質に影響を及ぼす基本「ミニマムスタンダード」を提唱し、三点グレーの測定値と基準となるマンセル値との色差をL*a*b*表色系で見やすくチャート化した「QC鳥瞰図」を開発するなどの活動を行っています。

機長認定

印刷オペレーターとしての必要な知識と技術を習得し、機長として責任感を持って作業が出来るか否かの試験を行い、合格すれば機長として認定する制度を設けています。

コンテストの様子

技能コンテスト

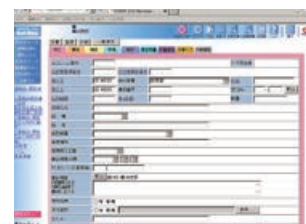
技能コンテストを通して作業段取りの標準化を進めています。印刷前準備・見当色調合わせ・印刷中・印刷後における手順とルールが守られているかを厳正なる立ち合いの下、審査を行います。



品質DBの画面

品質管理

品質マニュアルを定め運用しています。各工程でも規定文書を定め、責任権限の明確化、検査体制、検査項目などをルール化し、不良の発生を抑制しています。印刷物を再生産することになったものは、「品質DB」という当社独自開発のデータベースに詳細が入力され、記録されていきます。各工場では、小集団活動により、不具合の分析、対策、共有を行っています。



検査装置

印刷機にはインラインで印刷物の検査ができる装置を導入しています。目視では発見しづらい不具合も発見できます。



検査装置

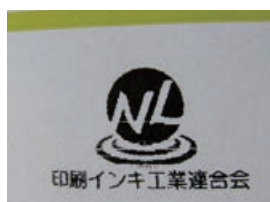
安全な製品を作るために

印刷物の主な材料は紙とインキ。インキは紙とともに直接手に触れるものですので、材料となる化学物質を確認しています。

インキのNL規制と食品衛生

印刷インキ工業連合会が、インキの自主規格として定めた規制として、NL (Negative List) 規制があります。印刷物で包装される食品の安全性や衛生性を保つために、1973年に制定したものです。印刷物の様々な用途を考慮し、食品用途に限らず、一般的な印刷インキ全てに適用されています。

NL規制に基づいたインキであっても、インキが直接食品に触れることは食品衛生法で禁止されています。容器包装の外側へ印刷したり、インキをフィルムで



印刷インキ工業連合会

NLマーク

サンドイッチする構成等にして、印刷インキが直接食品に接触しないような容器包装にすることが必要です。(食品に触れるインキは可食性インキを使用し、食品添加剤で構成されます。)

また印刷インキ工業連合会ではNL規制を2006年5月に改訂し、従来の規制対象物質に加え、RoHS指令にも対応しました。(従前よりPBB、PBDEは印刷インキの原材料として使用されていません) また、毎年規制対象物の見直しも行っていきます。

お客様とつくる未来のために

印刷業は、受注があってから動き始める業種であるため、受身になりがちですが、私たちはお客様と一緒に人々の暮らしを豊かにしていくとの認識に立ち、積極的に世の中に働きかける活動を行っています。

音楽ジャケットの良さを世の中に広めたり、将来のデザイナー発掘に貢献したり、トキの野生復帰を支援したり、

お客様とともに歩んで行く未来を見据えて、いろいろな活動を行っています。

ミュージックジャケットギャラリー

Music Jacket Gallery 2016

Music Jacket Gallery 2016

「音楽パッケージメディアの大展覧会 = Music Jacket Gallery」。本社の常設展の他、年に一回外部のイベントスペースでも開催しています。

10回目を迎えた2016年は、5月13日(金)から22日(日)まで、新宿高島屋にて「Music Jacket Gallery 2016」を開催しました。

今回は、最新の豪華・特殊パッケージと、人気の「猫ジャケ」、「カー(車)ジャケ」の展示や、2012年のギャラリーでも好評だった高音質ディスクと通常ディスクの聴き比べや、実際にプレイヤーを操作してのアナログレコードの試聴コーナーを設置し、見て、触って、聴いて楽しめるイベントとなりました。週末にはスペシャルゲストを招いたトークショーやハイエンド・オーディオ試聴会などのイベントや、「ミュージック・ジャケット大賞」の結果発表も行い、10日間で約15,000名のお客様にご来場いただきました。

「Music Jacket Gallery 2016」

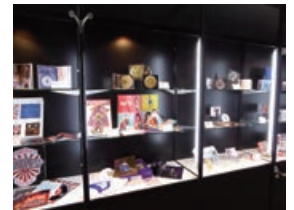
【主催】 Music Jacket Promotion Committee
株式会社一九堂印刷所／株式会社金羊社／株式会社 JVC ケンウッド・クリエイティブメディア／株式会社ジャパン・スリーブ／株式会社ソニー・ミュージックコミュニケーションズ／株式会社ソニー DADC ジャパン／東洋化成株式会社／メモリーテック株式会社 (50音順)
一般社団法人 日本レコード協会

【共催】 新宿高島屋

【協賛】 一般社団法人 日本音楽出版社協会 /
一般社団法人 日本音楽制作者連盟

【後援】 経済産業省

※ MJG 公式サイト : <http://musicjacket.jp>



新宿会場の様子



特別企画展示

ミュージックジャケットギャラリーは、2016年7月9日から7月18日まで、京急蒲田の大田区観光情報センターで特別企画展示として、厳選した20枚のアナログジャケットの展示を行ないました。

常設展

本社の常設展は、3ヶ月ごとにテーマを設定し展示内容を変えて展示しています。



見学のお申し込みは、当社ホームページの申し込みフォームよりどうぞ。

※ MJG 常設展 公式サイト <http://www.kinyosha.co.jp/mjg/>

みんなでカンボジアに寺子屋をたてよう！ プロジェクト

様々な事情により、学校に通うことが出来なかったり、ドロップアウトしてしまう子供たちが多く存在するカンボジアの貧しい村で、それでも「学びたい」と目を輝かせる子供たちのために「学びの場＝寺子屋」を作りたい、そんな倉木麻衣さんの想いに端を発して3年前に始まったプロジェクト。多種多様な募金活動を経て、2015年12月からはヤフオクの「reU funding」にて、倉木さんのサイン入り衣装を始め、金羊社クリエイティブワークスからイラストのレプリカ、CRIOSは寺子屋に貼られるものと同仕様のタイルを出品。合計1,000万円もの資金を集め、支援金として寺子屋の建設に充てられました。



2016年2月に、日本ユネスコ協会連盟全面バックアップのもと、カンボジアのシェムリアップポック郡トレイノル・コミュニケーションコックドン村に建設されていた寺子屋にて、開所式が行われました。当社もCRIOSで製作した倉木麻衣さん自筆のイラストタイルを施工、WORLDLIBRARYからは絵本と本棚を寄付しました。



トキの野生復帰支援

当社は2007年より「トキの野生復帰支援プロジェクト」の法人サポーターとして活動し、2010年まで毎年2回トキの餌場となるビオトープ作りを行いました。

2008年からは無事にトキの放鳥が開始され、2012年自然環境でのヒナの誕生が確認され、以後順調にその数を増やしています。

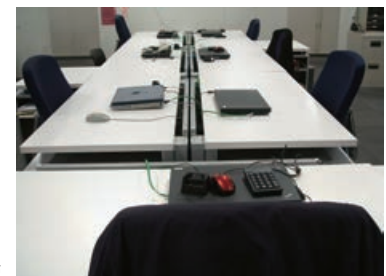


木にとまる放鳥トキ
【提供：環境省】

情報セキュリティ

お客様からお預かりしている情報、組織内の情報、社員の個人情報、全ての情報を守るため適切な対策を施しています。施設への入退出管理、施錠管理、秘密保持契約、クリアデスク、クリアスクリーン、防犯カメラ等により情報をお守りしています。

当社の本社及び御殿場工場は、情報セキュリティマネジメントシステムの国際規格「ISO27001」の認証を取得しています。



クリアデスクの実施



MUSICSELF

本サイトは、2006年5月にスタートした音楽プロモーションサポート媒体です。“プレイリスト（オススメの10曲）”という形式による、「リスナーが新しい音楽を発見する」ためのポータルサイトです。現在は歌謡曲に関する情報を発信するサイト「歌謡曲リミテッド」や、ヴィジュアルロックの情報を配信するサイト「V-SHELF」も展開中です。

<http://musicshelf.jp>



「ミュージックシェルフ」に掲載されているプレイリストは本にもなりました。

日本パッケージデザイン大賞「金賞」受賞

隔年で行われる日本パッケージデザイン協会主催の日本パッケージデザイン大賞2015において、株式会社竹尾様主催による展示「造る箱」が「金賞」を受賞しました。

この展示は、紙器の設計家であるコンストラクションデザイナー5組が新しい箱の構造を考案し、パッケージデザインの可能性を提示した展示会です。当社も参加し、エンタメパッケージを想定した作品を展示しました。



受賞作品一覧はこちら

<http://www.jpda.or.jp/jpda-award/2015/awards/>

ステークホルダーとのコミュニケーション

お客さま、株主、提携先、購買先、地域社会、行政といったすべてのステークホルダーとの良好な関係が重要だと考えています。

さまざまなコミュニケーションの機会を設け、良好な関係作りを心がけています。

品質会議

当社の工程委託先様に対して、当社の社員が訪問したり、当社に来ていただいて、発生している品質に関する懸念事項の説明をする機会を設けています。

業績報告会

毎年七夕の時期に、当社の協力会社様に対して、当社の業績や重要課題を説明する機会を設けています。

90周年を迎えた昨年は「90周年感謝の集い」と題して、加山雄三さんに素晴らしい歌と演奏も披露していただきました。

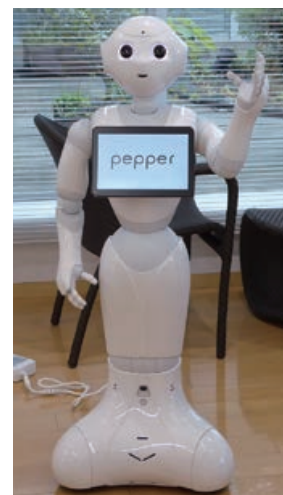


株主総会

毎年6月に本社にて株主総会を開催しています。当社の株主には既に当社を定年退職された方も多くいらっしゃる、株主総会には懐かしい顔ぶれもそろいます。

工場見学

本社、御殿場工場ともに毎年多数の工場見学を受け入れています。本社は、以前大田区の小学校の社会科副読本で紹介されていたこともあり、小学校からの工場見学申し込みもあります。今年からはペッパー君も見学の案内をしてくれています。



社会のために

経営理念でもある「いかなる時も社会とマーケットから信頼され」るために、企業市民としてルールを守り、健全な事業活動のもと、地域や社会との共生、貢献を行い、信頼を築いていきます。特に災害などの緊急事態が発生した場合には、近隣との助け合いが必要となってきます。

日ごろの備えや訓練、開かれたコミュニケーションが大切です。

コンプライアンス

法規制等順守のため、社内規程文書を整え、社員のコンプライアンスへの啓蒙を図っています。相談窓口として社外の社会保険労務士とも契約しており、意見を聞きながら随時見直しを行っています。また管理職者を対象とした勉強会も実施しています。

安全衛生面に関しては、安全衛生委員会を組織し毎月社内巡回を行い、指摘があれば会議において対策を話し合っています。

環境関連の法規制等に関しては、半年毎に法規制等の改正状況を調査するとともに、チェックリストを作成し、法規制の順守状況を各部署と管理部門とのダブルチェックを行っています。

品質、環境、情報セキュリティに関するコンプライアンスに関して、定期監視を行うとともに、年一回の内部監査により確認を行っています。以上の体制により重大な違反は発生していません。

備蓄

本社のある東京都では震災に備え「帰宅困難者対策条例」を制定し、企業に3日分の水、食料等の備蓄を努力義務化しています。このため本社と御殿場工場には3日分の備蓄を行っています。



地域をキレイにしたい

社内だけではなく、社外もきれいにしたい。企業市民として、自分たちの活動する地域を汚したくない。そう考えています。

クリーンデー

鶉の木本社では、会社から最寄りの駅までを清掃する活動「クリーンデー」を毎月実施しています。清掃中に「ごくろうさま」と声をかけてくれる方もいらっしゃって、とてもありがたく感じます。

また、「雪谷法人会」が行っているボランティア活動の「多摩川河川敷の清掃活動」にも毎年参加しています。

御殿場工場では、市内美化の清掃活動にも参加して地域の美化を行なっています。



御殿場市内清掃

富士山の清掃活動

毎年8月に、御殿場市において「富士山をいつまでも美しくする会」主催の富士山の一斉清掃活動が行われており、当社からも毎年有志が参加しています。(2016年は悪天候のため中止になりました。)



多摩川河川敷の清掃

緊急事態に備えています

地震や火災など緊急事態に対応するために様々な取り組みを行っています。BCP（事業継続計画）の策定、緊急連絡網の整備、携帯用防災マニュアルの配付、防災用品の準備等、順次整備を進めています。また自衛消防隊の強化などにも力を入れており、地域のお役に立てるよう訓練をしています。

自衛消防訓練審査会で優勝

2016年9月に行われた田園調布消防署及び田園調布防火管理研究会が主催する「自衛消防訓練審査会」に今年も参加しました。新入社員5名と若手社員1名で男子隊、女子隊1隊ずつ組み、ともに1号消火栓の部に参加しました。結果は、みごと男子隊、女子隊ともに優勝し、ダブル優勝の快挙を達成しました。通常の仕事をこなす中、練習にはたいへんな努力をしています。

出初式に参加

2016年1月6日に東京ビッグサイトにて行われた東京消防出初式に参加しました。参加したのは、徒列部隊等分列行進と消防演技。徒列部隊等分列行進中には社名もアナウンスされました。消火の演技では、実際に燃えているものを消すという貴重な体験ができました。周囲での小さなハプニングもあり、打合せどおりいかず、あわただしい中での消火演技となりましたが、実際の火災現場ではシナリオのない中で消火していることを考えると、臨機応変に対応することの大切さも体験することができました。この模様はNHKでも放送されました。

御殿場で隣家火災を消火

2015年12月の夕方、工場近隣の民家より出火しているのを当社社員が発見。工場設置の消火栓ではホースの長さが足りないため、工場内の他の消火栓からかき集めたホース5本を連結し、100メートルにおよぶ放水を実施しました。多くの工場スタッフが連携し、近隣火災の被害を抑えることができました。後日御殿場市小山町防火安全協会より表彰状をいただきました。

審査会の様子



優良防火対象物認定を取得

本社ビルは、2014年11月に東京都の優良防火対象物認定（通称：優マーク認定）を受けました。優マーク認定とは、東京消防庁が推進している優良防火対象物認定表示制度のことで、法令以上に防火安全性が高い建物であると消防署長が認めた証です。優マーク認定を受けた建物の所在は東京消防庁のホームページで確認できます。

<http://www.tfd.metro.tokyo.jp>



AEDの設置

本社のエントランスと御殿場工場内にAED（自動体外式除細動器）を設置しています。非常時には近隣の方にもお貸しできるように、本社では外から見える位置に設置しています。

防災訓練

毎年防災訓練を実施しています。この日は自衛消防隊が中心となり、震災時の身体保護、対策本部の設置、出火を想定した消火訓練、避難集場所までのスムーズな移動、設備の問題点などを確認し、手順の見直しを図っています。



本社防災訓練

応急救護訓練

2016年には防災訓練とは別に応急救護訓練を実施しました。消防署の方に来ていただき、三角巾を使用した応急処置方法などを学びました。



応急救護訓練



各部署の緊急事態対応

防災訓練にあわせて、各部署で所有している設備で、緊急事態の発生が予測されるものに関して、各部署単体で緊急事態に対する訓練を行っています。



現像機からの漏洩を想定した訓練

無線機の導入

各拠点に1台ずつ、IP無線機を導入し、コミュニケーション手段の強化を図っています。IP無線はデータ通信機能を使用するため、音声通信よりも回線輻輳の影響を受けにくいとされています。また複数拠点間への同時配信が可能のため、情報収集がしやすくなります。



IP無線

いろいろな人のために

震災等のときには適宜義援金を寄付するなどの活動を行っています。通常時は以下の寄付をずっと以前から継続しています。

キャップによりワクチン寄付

当社は、2009年3月より飲料用ペットボトルのキャップだけを回収して、リサイクルしその代金で世界の子供にワクチンを送るNPO法人 Re ライフスタイルにキャップを寄付しています。



キャップの収集

アースアクセス募金

社内に募金箱を設置し、難民救済を目的とする民間団体「日米アースアクセス委員会」を通じ UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）に寄付をしています。

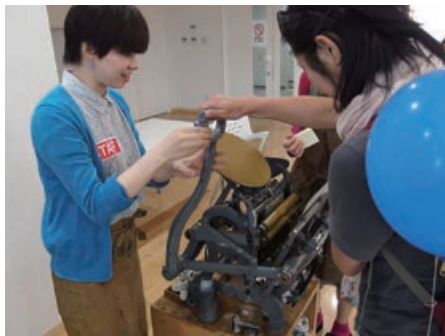
印刷のいろはフェスタ

第9回目になる「印刷のいろはフェスタ」を、2017年5月19日（金）と20日（土）に開催しました。

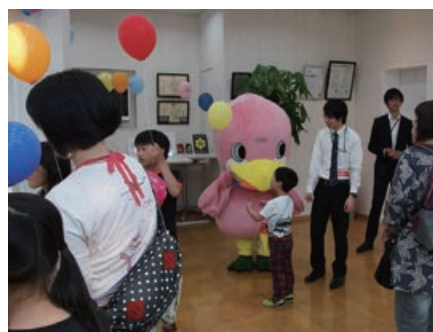
「印刷のいろはフェスタ」は、金羊社と活版印刷工房のALL RIGHT PRINTINGによる印刷加工を体験出来る合同企画展です。

地域住民の皆様への認知度が上がってきたのか、来場者数は約1,600人と今年も多くの方々に参加をして頂きました。

今回は、「沢山の方に印刷の素晴らしさを知ってもらいたい」という想いのもと、印刷加工体験の無料化や巨大飛び出す絵本で表現した印刷の世界等、毎年来ていただいている方にも楽しんでもらえるイベントになるように心がけました。この体験を通して印刷と、加工にまつわる世界に興味を持って親しんでいただければと思っています。



活版印刷



うーちゃん



巨大紙相撲



カラーセラピー

スクリーン印刷



巨大飛び出す絵本

エフエム御殿場

当社も出資して2014年3月に御殿場市に開局した新たなFMラジオ局「富士山GOGOエフエム」。御殿場市初となるコミュニティFMとして開局し、各公共機関、企業、各種団体から個別に発信されているあらゆる情報を住民、観光客に向けて、リアルタイムに発信しています。御殿場市を始め、国土交通省、ネクスコ中日本とも災害協定を締結し、防災放送局としての役割も担っています。緊急時・災害時には迅速な地元の情報を市民や観光客に発信することにより多くの人々の安全と安心を守る放送局として頑張っています。



働く人の笑顔のために

企業の源泉は人です。全社員が笑顔でいられる。

そんな職場作りを目指しています。

そのためには働きがいを感じることができ、安心して働ける環境づくりが必要です。

コミュニケーションの促進

社員間でのさまざまなコミュニケーションが、良好に行われるような仕組みを取り入れています。

行動指針発表会

毎年4月に全社員が集合し、新年度の会社の行動指針を発表する場を設けています。発表会の後には、懇親会を設けて普段話す機会のない社員同士が話をできる場を設けています。



懇親会

VOICEの発行

社内報として「VOICE」を発行して、社員同士のコミュニケーションの活性化を支援しています。毎月発行のMINI VOICEと年に一回のVOICEで、社員の活動や特技などいろいろなことを紹介しています。

デジタルサイネージの設置

各事業場にデジタルサイネージを設置し、同じ情報が流れるようにしています。流す情報は、社内のイベント紹介、当社で製造した製品の紹介や、CDランキングまで多彩な情報を流しています。



執務フロアに設置したデジタルサイネージ

テレビ会議の利用

本社と各工場の間は、テレビ会議システムを利用しての会議が可能です。

生産計画の打合せや、品質管理の会議、全体会議や講習会などもテレビ会議を利用して行えます。言葉では伝わりづらい、形状や色調などを視覚で伝えることができるため、以前よりも伝達ミスが少なくなりました。

サンクスカード

社員がお互いに感謝したり尊敬したりしたことを、カードに書いて相手に渡す、サンクスカードというシステムを運用しています。感謝、尊敬、楽にカテゴリわけされたカードを利用して、他の社員に気持ちを伝えることで、気持ちの良い職場環境を形成できます。カード内容はボードに貼りだし、みんなで内容を共有しています。



資格取得の推進

個人の力量アップが会社の力量アップにつながることから、資格取得の推進をしています。技能検定の他に、DTPエキスパートやクロスメディアエキスパートの取得も、専門講師を招いての勉強会を開催するなどして、取得の推進をしています。

印刷技能検定の実施

印刷工程では、印刷技能検定取得者を増やすべく取り組んでいます。

2017年度は8月27日に、4名が一級を受験します。

2016年度終了時点で資格取得者は一級11名、二級7名となりました。



技能検定の様子

技術コンテスト

技術コンテストを実施して作業段取りの標準化を進めています。印刷前準備・見当色調合わせ・印刷中・印刷後においての手順とルールが守られているかを、厳正なる立ち合いの下、審査を行います。一人ひとりの意識の向上を図り、品質向上、生産性向上に繋がっています。



技術コンテスト▲
チェックリスト▶

安全に働ける職場にしたい

機械を使ったり、洗浄剤等を使用する作業があるため、作業環境管理には細心の注意をはらっています。

化学物質の管理

使用している溶剤等に含有する化学物質で、「有機溶剤中毒予防規則」「特定化学物質障害予防規則」「がん属性指針対象物質」「毒物及び劇物取締法」「PRTR法」に該当するものを調べ削減する活動を行っています。印刷の工程では、2013年8月より第一～三種に該当する溶剤を使用していません。

作業管理

作業場には、体に影響のある有機溶剤を使用する作業を行なう場合に、手袋、マスクなどの適切な保護具が利用されるよう備えています。

また作業場ごとに有機溶剤作業主任者を選任し作業管理、換気の確認にあたっています。

作業環境測定

作業場では、設備により大きな騒音のもとで作業する工程もあります。作業環境の改善を図るため、毎年騒音測定をして状況を把握するとともに、必要な対策を講じています。



安全衛生管理

御殿場工場において、「私の安全宣言」を掲示し、安全意識向上を図っています。また毎月1回安全衛生委員会を開いて、よりよい社内の環境作りを話しあっています。

宇都宮と大口の工場では、衛生管理が重要であるため、作業場に入る前の手洗い、ホコリ取り、着帽、靴のはき替えなど徹底した管理を行っています。



宇都宮工場の作業場入り口

健康診断

通常の1年に1回の健康診断の他、深夜業に従事する従業員に対しては年2回の健康診断を行なって、健康管理を行なっています。

SDSの備え

有機溶剤を使用する作業者が常時 SDS を参照できるように現場に備えつけるとともに、有機溶剤を取扱う際の注意事項を、作業場に大きく掲示し作業者の注意を喚起しています。

いきいきと働ける職場作り

育児、介護、高齢者、女性活躍など、色々な状況の人が働きやすい職場を作るための対応を強化しています。

次世代育成支援行動計画

次世代育成支援対策推進法により、一般事業主行動計画を定めています。2014年4月からの2ヵ年計画は達成し育児短時間勤務制度や子供の看護休暇制度を、法的義務を上回る制度に変更するなどし、「くるみん認定」も取得できました。現在は2016年4月からの3ヵ年計画として「父親が取得する子の看護休暇の利用実績累計10人以上。」「子供の出生時に父親が取得する育児休業の取得者実績1人以上。」「社員の年次有給休暇の一人当たりの取得日数増加。」の3項目を設定し推進しています。計画内容については厚生労働省のサイト「両立支援のひろば」にも掲載されています。

<http://www.ryouritsu.jp/hiroba/index.php>

とうきょう次世代育成サポート企業に登録

当社は、東京都の「とうきょう次世代育成サポート企業」に登録しており、インターネットの紹介ページ（愛称：チャオ）で紹介されています。

<http://www.wlbnavi-ciao.metro.tokyo.jp/>



女性の活躍推進

当社では、「えるぼし」（三段階目）認定を取得しています。（詳細は P5 参照）。

再雇用制度

当社でも社員の平均年齢は上がってきており、高齢者の活用は今後の課題となっています。定年の60歳以降も最大65歳まで再雇用を行う仕組みにしています。

地球環境への配慮

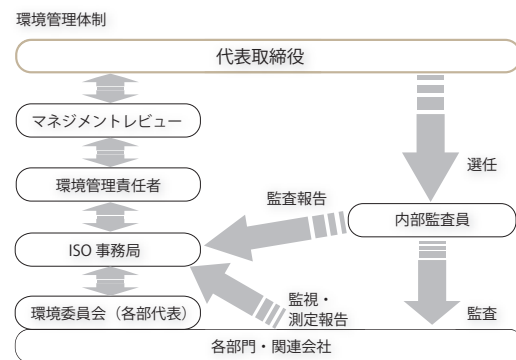
かけがえのない地球を次の世代に残していかななくてはなりません。経済の発展とともに失ってきた地球環境を、これからは経済と環境を両立させるべく、取り組まなければなりません。

環境管理

当社は、2003年1月に環境マネジメントシステムの国際規格ISO14001の認証を取得し、それから10年以上にわたって環境管理体制を維持し続けています。2013年7月には、審査機関である一般財団法人日本規格協会様より、マネジメントシステム永年登録表彰を授かりました。

認証の取得当初は、環境負荷の低減ということに対して手探り状態で、ゴミと電気を減らすという簡単な活動から始めました。地球温暖化も深刻化している現在は、活動の幅を広げ、環境配慮型製品の開発や化学物質の影響低減などにも取り組んでいます。早い段階で環境に対する社員の意識を向上してきた

ことが、日印産連が実施する環境優良工場表彰の経済産業大臣賞獲得につながるなど、良い効果を生み出しています。今後も、さらなる課題解決に向けISO14001の認証を維持してまいります。



品質・環境・食品安全方針

私たちは、心を潤す美しく楽しい製品・サービスの提供のために、お客様の真意を理解することに努め、最善を尽くしてまいります。また事業活動により発生する環境への有害な影響を低減するとともに、安全・安心な製品・サービスを提供し、企業の社会的責任をはたします。

(1) 継続的改善

組織をとりまく状況を的確に把握するとともに、毎年方針を見直し、適切な目標を設定、定期的な活動の監視、見直しを行い、目標の達成、パフォーマンスの向上及びマネジメントシステムの継続的改善を図ります。

(2) 事業活動における環境配慮

事業活動において次に代表される項目を配慮します。

- (a) 気候変動の緩和及び適応
- (b) 資源消費の最適化
- (c) 廃棄物の削減
- (d) 有害化学物質の使用削減
- (e) 製品による環境影響の低減
- (f) 周辺環境への配慮

(3) 食品安全

食品安全に係わる全ての社員が衛生管理の重要性を認識し、食品安全に関する知識を向上させるよう努めます。

(4) 法規制等の順守

適用される要求事項や法規制等を順守します。また、利害関係者のニーズを考慮し必要に応じ自主基準を設定し活動することにより、製品・地域・地球の汚染予防をはかります。

(5) コミュニケーションの推進

ホームページ等を使用して、本方針やその他の情報を広く公開いたします。また、社内教育の充実をはかり内部及び外部とのコミュニケーション向上に向けた活動を行います。

平成 29 年 4 月 1 日

工場全体をグリーン化

全ての工程をグリーン化したい、そんな願いから会社全体をグリーン化しています。

グリーンプリンティング工場

日本印刷産業連合会が実施する「印刷サービスグリーン基準」の資材項目以外の基準に適合していること、それがグリーンプリンティング工場の認定基準です。当社では、御殿場工場・本社ともに認定を取得しています。認定には有効期限があり、3年毎に更新審査を受け、認定を維持しています。認定基準も、年々改訂を繰り返し高度化してきています。都度対応していくことにより、会社の環境配慮レベルがパワーアップしていきます。近年日印産連では、資機材認定制度をスタートさせ、洗浄剤、エッチ液、現像機、現像液、プレート、セッター、デジタル印刷機等のカテゴリーで環境に良い製品を認定しています。グリーンプリンティング工場ではそれらの認定製品を使用することを推奨されており、業界全体のグリーン化を目指しています。



GP認定制度キャラクター ジッピー®

環境優良工場

日本印刷産業連合会の実施する、環境配慮に優れた取り組みをしている工場を表彰する制度です。書類審査の第一次審査の後、第二次審査となる現地審査を受け、決定されます。

当社御殿場工場は2008年度の第七回に経済産業省商務情報政策局長賞を受賞しました。その後、さらに環境改善活動のレベルを向上させたため再度挑戦し、2010年の第九回には最高の荣誉である経済産業大臣賞を受賞しました。

第九回の審査では、92工場の応募があり、第二次審査には過去受賞した工場が上位を占めており、環境配慮レベルの高い工場が従来にも増して多かったとのこと。その中でも当社は、「過去の受賞時に比べて活動が大きく前進しており、かつ他工場と比べても総合的レベルにおいて抜きん出ている」との総評をいただきました。

受賞に慢心することなく、環境配慮活動のさらなる向上を目指してがんばっています。

太陽光発電の利用

当社では、本社と御殿場工場合わせて30kw分の太陽光発電装置を設置しています。太陽光発電は「電力」の他に、自然エネルギーにより発電したという「環境付加価値」も生み出しています。「電力」は自社内で消費していますが、「環境付加価値」はネクストエナジー・アンド・リソース株式会社様を通じ、グリーン電力証書システムに参加し第三者に移転しています。当社の太陽光発電装置はネクストエナジー・アンド・リソース株式会社様のホームページでも紹介されています。

エナジーグリーン <http://www.energygreen.co.jp/>
えねぱそ <http://www.ene-paso.net/>



御殿場工場のソーラーパネル



本社のソーラーパネル



授与された賞状と盾



環境に配慮した紙の使用

安心して使用できる紙をお客様にお届けしたい。私たちはそう願っています。東京五輪に向けて東京2020組織委員会は2016年1月に「持続可能性に配慮した調達コード」の基本原則を公表し、違法伐採木材の排除を盛り込みました。2012年のロンドン五輪では、使用する紙製品は森林認証紙か再生紙に限定されました。はたして東京五輪ではどうなるのか注目されています。

森林認証紙の使用

紙の原料となる木材の利用は、国産材が約3割しかなく、約7割を輸入材に頼っています。(経済産業省の統計より)ところが海外では違法伐採や生態系の破壊を考慮しない無計画な伐採が問題となっています。私たちは知らず知らずのうちに違法伐採された木材から作られた紙を使用しているかもしれないのです。

森林認証紙を使用することにより、世界の違法伐採を防ぐとともに、森林破壊を防ぎ生物多様性にも配慮することができます。

FSC® に代表される森林認証制度は、森林の適切な管理 (FM 認証) から木材の流通の管理 (COC 認証) まで一貫して識別を行うことを要求しており、この要求にこたえられる企業だけが、認証製品を扱うことができます。

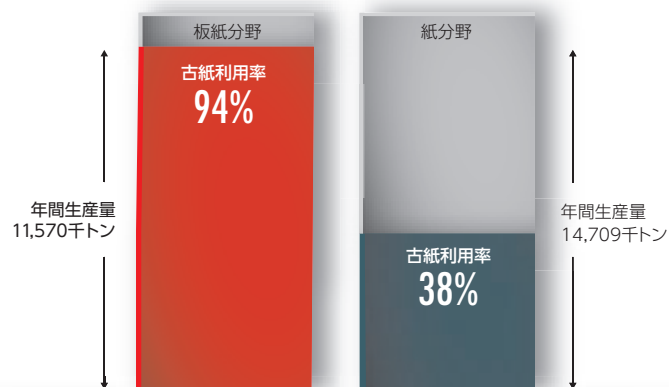
当社は、2005年にFSC COC 認証を取得し、お客様にFSC 認証紙の使用をお勧めしています。



再生紙の使用

日本では古くから新聞・雑誌・ダンボールなどの用途で古紙が多く利用されていますが、この分野での古紙の利用は既に飽和状態に近く、印刷・情報用紙などでの古紙利用率の向上が課題となっています。再生紙は、古紙の再生処理に多くの薬品や燃料を使用することから、バージンパルプから紙を製造するよりも二酸化炭素排出量が多くなりますが、古紙を積極的に利用しないと、いくら植林しても森林資源が枯渇してしまいます。より多くの古紙が印刷用紙に再利用されるようにしていきたいと考えています。

紙の分野別古紙利用率(2016年)



※経済産業省：紙・印刷製品統計より

植林

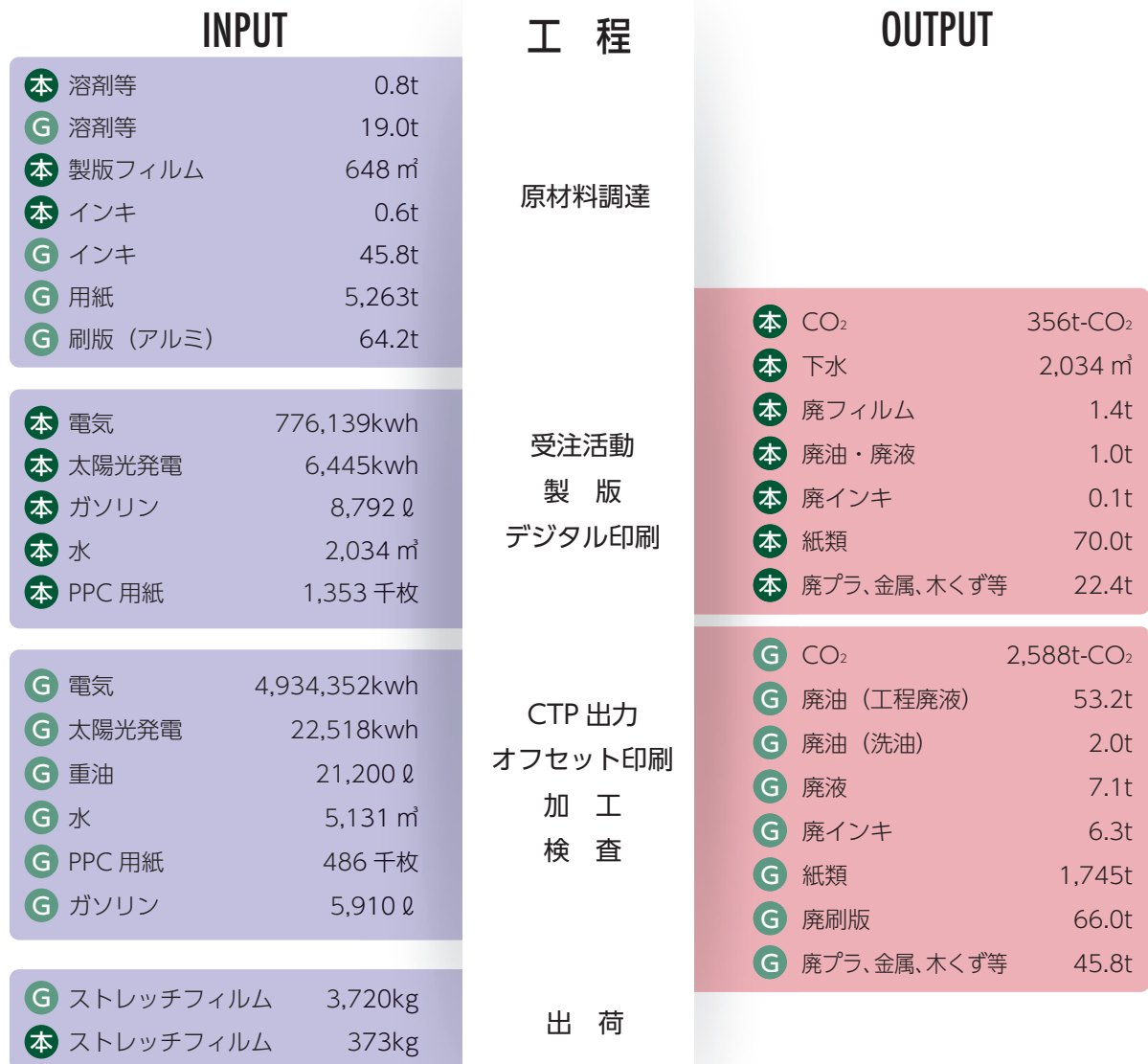
当社が会員となっているNPO法人クリーン・プリントでは、岩手県岩泉町が行っている森林保護活動を支援するため、町側と助成協定を結び町有林2ヘクタールに資金助成と植林や樹木の育成に必要な作業に携わることにし、この2ヘクタールの土地に「クリーン・プリント 絆の森」と名付けました。2010年5月には植林作業を行ない、300本以上のトチの苗を植えました。



植林の様子

事業活動による環境負荷の把握

金羊社では環境影響低減に取り組むために、使用したり排出したりする材料、エネルギー等のデータを調べています。



本 本 社 G 御殿場工場
 宇 宇都宮工場 大 大口工場

参考データ

| | |
|--|---|
| 宇 電気 2,516,204kwh | 大 電気 264,708 kwh |
| 宇 ガス 7,704 m ³ | 大 ガス 4,573 m ³ |
| 宇 水 1,521 m ³ | 大 水 195 m ³ |
| 宇 ガソリン 1,910 ℓ | 大 ガソリン 1,305 ℓ |
| 宇 CO ₂ 1,310t-CO ₂ | 大 CO ₂ 184 t-CO ₂ |

環境活動の計画と実績

2016年度の環境目標と実績、
そして2017年度の目標です。

本社と御殿場工場以外の工場については、まだフル稼働ではないため目標の設定はしていません。

■自己評価の意味 ○=よくできた △=もう少し努力が必要です ×=改善を要します ■サイト H=本社サイト G=御殿場サイト

| 方針 | 項目 | サイト | 目標 | 2016年度結果 | 自己評価 | コメント | 2017年度目標 |
|----------------------------|---------------------------------------|---------|--------------|--------------|-------------------------------|--|--------------|
| 二酸化炭素 排出削減 | CO ₂ 排出量削減 | 合計 | 2,767t | 2,943t | × | 電力供給会社を変更したため 係数増加 | 3,124t |
| | エネルギー使用量(原単位) (ガソリン除く) | 合計 | 0.178 | 0.203 | × | エネルギー使用量は減少するも 売上高が追いつかなかった | 0.173 |
| | 電力使用量削減 (2013年度比) | H | 820,000kwh | 776,139kwh | ○ | 省エネ活動を継続していることの効果 | 800,000kwh |
| | | G | 5,100,000kwh | 4,934,352kwh | ○ | 新しい印刷機への入れ替えなど | 4,800,000kwh |
| | ガソリン使用量削減 (2013年度12,452ℓ) | H | 11,000ℓ | 8,792ℓ | ○ | 新車両への切り替えなどにより 燃費向上 | 9,500ℓ |
| 重油使用量削減 (2013年度27,500ℓ) | G | 23,000ℓ | 21,200ℓ | ○ | 細かい制御継続中 | 22,000ℓ | |
| 再生産低減 | 再生産件数の低減 | 合計 | 117件以下 | 121件 | △ | 前年度より減少はしているが 目標にとどかず | 100件以下 |
| 廃棄物削減 | 廃棄物排出量削減(有価除く) (2013年度100,359kg) | H | 115,000kg | 95,422kg | ○ | 廃棄物の量は少ないため 目標からは削除する | - |
| | 廃棄物排出量削減(有価除く) (2013年度275,584kg) | G | 290,000kg | 266,650kg | ○ | かなり減少しているため、 次年度からは有価物を含めて 廃棄物の削減をする | - |
| | 廃棄物排出量削減(有価含む) (2013年度2,037,805kg) | G | - | 1,972,190kg | - | 有価物の削減も行なっていく。 CTP版や用紙予備など。 | 2,000,000kg |
| 化学物質の 使用削減 | 有機溶剤第一～三種、毒・ 劇物を含む材料の使用削減 | H | 第三種2品使用 | 第三種2品使用 | ○ | 現状維持 | 第三種2品使用 |
| | | G | 使用1種類 | 使用1種類 | ○ | 加工にて使用もごく少量 | 使用1種類 |
| | PRTR法第一種指定化学物質を 含む材料の使用削減 | H | 22ℓ | 18ℓ | ○ | フィルム出力の減少 | 21ℓ |
| | | G | 使用1種類 | 使用1種類 | ○ | 1種類を維持する | 使用1種類 |
| VOC発生の抑制 | G | 1ℓ | 0ℓ | ○ | VOCの発生がほとんどないため、 目標から削除した。 | - | |
| 環境配慮型 製品の開発、 提供 | 環境配慮型企画提案のうち 採用件数 | H | 360件 | 853件 | ○ | 対象をデジタル印刷の提案に変更 | 600件 |
| | 環境配慮型企画提案の件数割合 | H | 50% | 97% | ○ | 対象物を広げた | 80% |

空気を汚さない

インキや洗浄剤からは揮発する成分があり、空気を汚す原因となる場合があります。これをVOC（揮発性有機化合物）といいます。主に石油系の溶剤から揮発する物質で、空气中に揮発すると、光化学スモッグの原因物質となったり、呼吸器系に悪影響を及ぼしたりします。空気を汚さない製品をお届けするのも私たちの役目だと考えています。

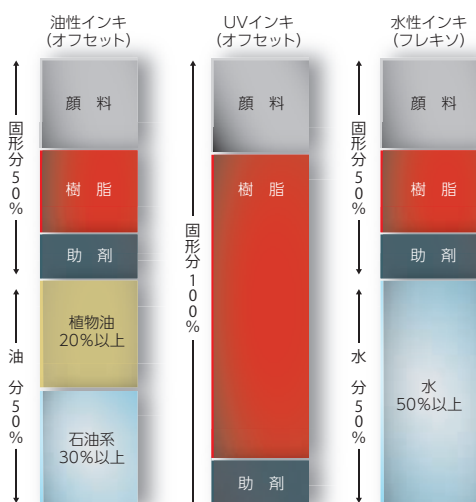
インキのVOC

インキもタイプにより様々な種類があります。油性、UV、水性などが代表的です。

油性インキは、油分が揮発することにより乾燥するタイプで、油分を約50%程度含んでいます。そのうち乾燥のため揮発する部分の油を植物由来の油にした植物油インキが主流となっています。しかし残りの部分は石油系の油が使用されています。当社では環境に配慮し、油性インキの使用をひかえ、UVインキと水性インキの使用をメインにしています。UVインキは、紫外線の照射により硬化するタイプのためVOCを発生しません。インキの成分としては油も含んでいます。揮発する部分ではないため、VOCの発生はありません。

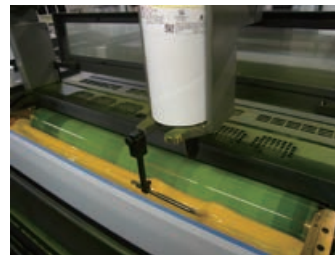
水性インキは、油分を含まず溶媒に水を使用しているため、VOCの発生が少なくてすみます。また印刷機の洗浄にも強い溶剤が必要なく、環境にやさしいといえます。

一般的なインキ成分比較イメージ



溶剤からのVOC発生抑制

印刷機の洗浄などで有機溶剤を使用しますが、VOCを発生する物質を含むものもあります。そのため、溶剤等の取り扱いには注意を払い、使用時以外はフタをして揮発を防ぐなどの対策をしています。また洗浄剤の入れ物として揮発を防ぐ容器（プランジャー缶）も使用しています。



印刷機のインキ供給装置



プランジャー缶（左）
フタ付廃棄容器（右）

臭気対策

インキは乾燥してしまうとほとんど臭いは感じられませんが、印刷したての状態では若干の臭いが感じられます。UVインキではオゾン臭が感じられるため、当社御殿場工場では、臭気を排気装置で屋根上ににがし、拡散して臭気が周囲に迷惑をおよぼさないように配慮しています。また印刷方式に変更がある場合は臭気測定をして、基準値内かどうか確認するようにしています。



臭気測定の様子



省エネルギー

工場で使用するエネルギーで大きいのは、製造設備とエアコンの電力です。これらの入れ替えや運用方法の工夫が大きな効果を生みます。省エネは、コスト削減や品質の安定などの効果も生みます。

ハイブリッドUV光源

御殿場工場の印刷機のうち1台は、ハイブリッドUV方式を採用する両面印刷機です。ハイブリッドUVとは、特定の波長を抑えたUV光源ランプを利用する方式で、通常のUVランプに比べて、熱やガスの発生もありません。このため省電力であるということはもちろん、空調への負荷が少ない、大気を汚染しない、排気装置が必要ないというメリットがあります。



ハイブリッドUV方式の印刷機

LED-UV

御殿場工場には、UVランプをLED照明に切り替えた印刷機もあります。2色の両面印刷のUV印刷機で、ハイブリッドUVに比べてさらに消費電力を抑えることができます。熱の発生やガスの発生もなく、薄紙や湯きの悪い紙などに威力を発揮することが期待されます。

LED-UV方式の印刷機



CTP

印刷版の作成も現在では、フィルムレスのCTPが主流となっています。当社でも東京からデータを御殿場に電送し、無人で刷版を出力しています。フィルムからの刷版作成装置は2009年に全て使用を廃止しました。



CTP出力機

校正の簡易化

色校正の工程もDDCPなどの簡易校正による代替が進んでいます。DDCPの色調再現は良く、特殊な用紙を使用しない物件であれば簡易校正でも十分です。お客様と連携した色調管理体制を築くことにより簡易校正の利用向上を推進しています。



簡易校正機の色調管理

デジタル印刷

デジタル印刷は、オフセット印刷に比べ刷版が必要なく、また色調の安定が早いいため損紙の発生が少ないなど大幅にエネルギーや資源の削減ができます。構造的に大量生産には向きませんので、大ロットにはオフセット、小ロットにはデジタル印刷と使い分けることにより、大きな効果が期待できます。



デジタル印刷機



カッティング加工

試作品作成にマルチカッティングマシンを導入しています。型抜き機での作成に比べ、省エネルギー、省資源化が可能です。また、多種多様なカッティング機能を備え様々な厚物資材へのカットが可能となっており、従来の手作業カットからマルチカッティングマシンへの移行を推進しています。



カッティングマシン

LED照明への切り替え

当社では 2015 年 3 月に、本社、御殿場工場の製版・印刷工程以外の照明を全て LED 照明に切り替えました。照明の変更は印刷物の色の見え方にも影響するので、慎重に行っています。照明を切替えると、確実に電力使用量は下がります。本社と御殿場工場あわせて、年間 90t 超の CO² を削減できる見込みです。

大口工場は、当初より全ての照明を LED にしてあります。



大口工場の LED 照明

電力使用量の監視

2009 年に御殿場工場で、2010 年には本社でも省エネを目的とした「Ecology & Economy プロジェクト」（通称エコエコプロジェクト）を実施し、電力使用量を大幅に削減することに成功しました。このプロジェクトでは、各所に取付けた電力使用量計測器と温・湿度計のデータをもとに省エネ対策を進めました。



使用電力の監視画面



キュービクルに取付けた計測器

集中端末による制御

本社ビルでは、照明、空調など集中端末により制御可能で、電源のオン・オフや温度設定などスケジューリングによるきめ細かな運転が可能となっています。



本社集中制御端末

自動倉庫

御殿場工場にはラック数 420 の自動倉庫があります。物を探す手間や空き場所を探す手間がなく、最短距離で荷物を移動させてくれるため、省エネにも大きく貢献しています。

コンプレッサーの集中管理

御殿場工場では、工場全体のコンプレッサーを集中的に管理しています。さらに設備の稼働状況に合わせて 1 台を停止させるなど、細かな制御も行って省エネにつとめています。



コンプレッサー配管

ガソリンの削減

営業などで使用する自動車でガソリンを使用します。自動車は台数を削減したりハイブリッドカーへの切り替えを推進しています。

重油の削減

御殿場工場ではボイラーで重油を使用しています。フロアの温度を一定に保つためにクーラーで冷やした空気を再度暖めるといった動作をしています。この無駄を極力なくするために、空調の外気取り入れを調整し暑い時期には外気だけでまかなうようにし、重油の使用量を抑えています。



御殿場工場のボイラー

リサイクルの推進

印刷物を作成する上でどうしても出てしまう廃棄物。しかしそれらのほとんどが、なんらかの形でリサイクルされ、埋め立てられるものはありません。私たちはさらに一歩踏み込んで、クローズドループリサイクルを推進するなど、いろいろな可能性を模索しています。

CTP版のクローズドループリサイクル

クローズドループリサイクルとは、品質の低下をほとんど伴わずに同じ製品にリサイクルすることです。

CTP版やPS版は、メーカー各社で成分の違いがあるため、他社製のプレートが混ざると成分が変わってしまいます。このため富士フィルム様では、以前から自社内ではクローズドループリサイクルを行っていましたが、2011年まで印刷会社で使用済みの版は対象としていませんでした。

当社では、回収業者、アルミリサイクル会社の協力を得て、いち早くこのシステムへの参加を決めました。このリサイクルアルミで製造されたCTP版は、新規の原料で製造されたものと比較して、約60%もCO²排出量を削減することができます。



P12C00113

当社は、印刷版のクローズドループリサイクルシステムに参加し環境負荷削減に貢献しています。



CTP版溶解の様子



溶解されたアルミ

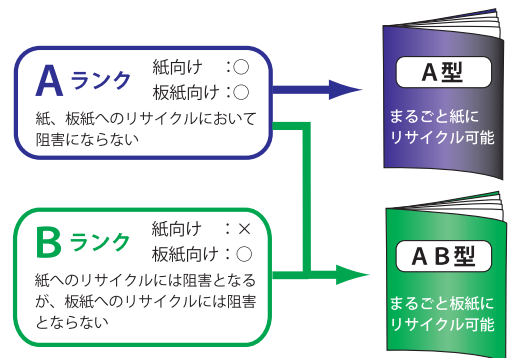
印刷物へのリサイクル適性表示

印刷用紙への古紙の利用を推進するために、国は一般消費者が分別して捨てる際に、印刷物のリサイクル適性の判断がつくように、リサイクル適性マークの表示を推奨しています。また日本印刷産業連合会では「リサイクル対応型印刷物製作ガイドライン」を配布しリサイクル対応型印刷物の普及を推進しています。

適性ランク

リサイクル適性を高めるには使用資材を決定する段階で、適性を考慮したものを選ぶことが重要です。古紙リサイクル協議会では、印刷資材のリサイクル適性をわかりやすく表にした『印刷物資材「古紙リサイクル適性ランクリスト」』を発行しています。これらを参考にして、できるだけリサイクル適性のよい資材を選ぶことが必要です。

リストでは資材のリサイクル適性をA～Dの4段階でランクを付けており、このうちAとBの資材しか紙のリサイクルには適していないことを示しています。



ランクAだけの資材で作られた印刷物には「リサイクル適性Ⓐ」のマークが入れます。ランクAとランクBの資材が混ざっているものには「リサイクル適性Ⓑ」がつけられます。

リサイクル適性 Ⓐ

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

リサイクル適性 Ⓑ

この印刷物は、板紙へリサイクルできます。

当社でもリサイクル適性のよい印刷物を増やしていきたいと考えています。

※当社の御殿場工場で使用しているUVインキは、全てリサイクル対応型UVインキです。これは「古紙リサイクル適性ランクリスト」においてAランクです。

水のリサイクル

日本は水資源に恵まれています。世界的に見ると水不足が懸念されています。地球温暖化によりさらに水の不足が進行しています。当社でも水を大切に使う取り組みをしています。

CTP現像液の循環

CTPの現像廃液は、廃液タンクにためますが、その前に一度ろ過装置でろ過して水分を取り出します。残った濃縮廃液だけ廃液タンクに入れ、分離した水分は再度現像機にもどし現像液の希釈水として再利用をしています。



CTP 廃液の濾過装置

湿し水ろ過装置

平版オフセット印刷は、水とインキの反発を利用した印刷方式であるため、水を使用します。できるだけ少ない水で印刷できるように、ろ過装置を導入して水を循環利用しています。ろ過装置がないと、湿し水は通常一週間ほどで交換しなければなりません。当社では印刷機に湿し水ろ過装置を接続し、不純物を除去して循環させ長く再利用することにより、湿し水の交換を3ヶ月毎に減らすことができました。

湿し水ろ過装置



通い箱の利用

当社が製造する印刷物の多くは、梱包に段ボールを使用し、細心の注意をはらって出荷されます。不要になった段ボール箱はお客様から返却してもらい、再度納品用に使用しています。



返却してもらった通い箱

段ボール箱の循環

繰り返し使用した通い箱は、古紙業者に引き取られ再度段ボール箱の原紙にリサイクルされます。その原紙を使用した段ボール箱を再度購入し、また通い箱として使用し資源の循環を促進しています。



ダンボールのリサイクル工程

パレットのリサイクル

用紙購入時に使用されていたパレットについては回収業者に返却しています。納入に使用し、納入先で不要になった空きパレットは引き取り再利用しています。破損して使用できなくなったパレットについては廃棄物業者に依頼し紙にリサイクルされます。



パレットの破砕

振動・騒音を抑えたい

当社の印刷工場は全て工業地域にあり、振動・騒音での苦情が発生することはありませんが、法規制による基準を遵守すべく対策をしています。

防音設計

印刷機は、騒音規制法と振動規制法の特設施設に該当します。大きな機械を昼夜稼働させるため、騒音・振動対策を施しています。全ての工場が防音設計になっているため、ほとんど外部に騒音がもれないようになっています。また作業場の扉の開放は禁止し

ています。印刷機の入替えなどがあると、室外機が増えたりしますので、都度測定をして騒音の度合いを確認しています。

フォークリフトの管理

発送で使用するフォークリフトは、各工場ともに騒音・大気汚染に配慮し、電動式を採用しています。本社ではバックブザー音の音量も低下させるようにしています。



電動フォークリフト

廃液の管理

製版、刷版、印刷、加工の各工程で廃液を出しますが、全てタンクにため処理を依頼しています。

廃液タンクを完備

各工程から出る廃液は全て貯蔵タンクに一時保管し、回収・処理を専門業者に委託しています。

御殿場工場にある廃液タンクは、工程廃液タンク(容量 10,000 リットル)、現像廃液タンク(容量 1,000 リットル)、ガム液廃液タンク(容量 5,000 リットル)に分かれています。

廃液タンクは、事務所にいても容量の状況が把握できるようにになっています。また、定期的に監視し亀裂等のないことを目視でも確認しています。

御殿場工場の廃液タンク▼



宇都宮工場の廃液タンク▲



浄化槽の水質検査の様子

浄化槽

御殿場工場では、下水道が利用できないため、生活排水は浄化槽を設けて浄化してから排水しています。浄化槽は浄化槽法により定期点検、清掃が義務づけられており、適切に管理しています。

御殿場工場の排水の水質測定結果

| 項目 | 測定値 | 基準値 |
|----------------|-------------|--------------|
| 水素イオン濃度(pH) | 6.7 | 5.8~8.6 |
| 生物学的酸素要求量(BOD) | 19.4mg/リットル | 20mg/リットル以下 |
| 浮遊物質(SS) | 14mg/リットル | 150mg/リットル以下 |
| 化学的酸素要求量(COD) | 46.0mg/リットル | 120mg/リットル以下 |
| n-ヘキサン抽出物質 | 2mg/リットル未満 | 5mg/リットル以下 |

2016年5月測定

廃棄物の管理

世の中では、いまだに不法投棄があとを絶ちません。当社が廃棄依頼をしたものが、処理工程で適切な管理がされているかどうか確認をしています。

許可証の確認

当社が委託している廃棄物処理業者に関して、廃棄物収集・運搬、廃棄物処理業の各種許可証を確認したうえで取引をしています。許可証の有効期限が切れたものは最新版をもらうように管理しています。

廃棄物処理業者の現地確認

静岡県では、条例で産業廃棄物の排出者に対して年に1回、廃棄物処理委託業者に対し適正な保管や処理の現地確認を行うことを義務化しています。御殿場工場では担当者が分担して各廃棄物処理業者の現地確認を実施しています。



廃棄物処理現地確認の様子

グリーン購入の推進

当社ではグリーン購入基準を定め、環境負荷の少ない製品の購入を推進しています。

基準は、用紙、インキ、溶剤、加工材料、文房具、設備・機械の各項目に分け、努力項目と必須項目に分けて指定しています。

サプライチェーン

グリーン購入基準のうち、化学物質に関連する項目に関しては、協力会社様各社に対し、依頼文書を配布し有害化学物質を使用しないよう依頼をしています。2014年には、工程で使用している有機溶剤の管理状態について、70社様に対しアンケート調査を行い、管理状況を把握するとともに管理体制の強化を推奨しています。

工程を委託する協力会社様とは、年に数回品質会議や製造の立会いを行い、コミュニケーションを図り間違いのない製品作りを推進しています。

環境配慮型製品

当社が購入する製品のほか、お客様が当社に発注して作成する印刷物もグリーン化するために、独自に「環境配慮型製品企画基準」を設け、該当する製品をお客様に積極的に提案する活動を行っています。また提案した製品が採用される採用率の向上も目指しています。

| 年度 | 用水使用量 (m ³) | 電気使用量 (千kwh) | ガソリン使用量 (リットル) | エネルギー使用量 原油換算(キロリットル) | 副産物・廃棄物の排出量 (kg) | CO ₂ 排出量 (t-CO ₂) |
|------|----------------------------|-----------------|-------------------|--------------------------|---------------------|---|
| 2012 | 12,120 | 6,160 | 15,696 | 1,565 | 2,109,155 | 2,954 |
| 2013 | 9,668 | 6,246 | 15,263 | 1,593 | 2,138,164 | 3,389 |
| 2014 | 12,621 | 5,850 | 14,582 | 1,485 | 2,315,651 | 3,184 |
| 2015 | 7,952 | 5,760 | 15,247 | 1,462 | 2,270,829 | 3,003 |
| 2016 | 7,165 | 5,710 | 14,702 | 1,453 | 2,067,612 | 2,943 |

当報告書についてのご意見・ご感想をお聞かせください

当社ホームページ上にCSR報告書についてのアンケート用紙が掲示してあります。ダウンロードしてご記入の上メール又はFAXにてお送りください。今後のCSR報告書を含めた環境活動の改善のために活用させていただきます。このアンケートにより収集したお客様の情報は本利用目的以外には事前にお客様に同意をいただいた場合を除き、利用致しません。

個人を識別、特定できない形態に加工した統計データにつきましては、第三者に提供または一般に公開させていただく場合がございます。

当社ホームページアドレス：<http://www.kinyosha.co.jp/>
 メール送付先：quality@kinyosha.co.jp
 F A X送付先：03-3750-2284
 担当部署：キャリアサポート部

環境関連の歴史

- | | | | | | |
|------|-----|--|------|---|---|
| 1926 | 9月 | 現在の東京都港区桜川町で創業 | 2009 | 6月 | NPO 法人 「クリーン・プリント」の第一号法人会員となる |
| 1941 | 11月 | 資本金 19 万円で株式会社金羊社に改組 | 8月 | 御殿場工場にて電力削減を目的とした エコエコプロジェクト実施 富士山の一斉清掃活動に参加開始。(以後毎年参加) | |
| 1959 | 9月 | 本社を東京都大田区鷄の木二丁目 8 番 4 号へ移転 | 10月 | SMBC 環境配慮評価私募債の評価において 良好な環境配慮を行なっているとの高評価を得た | |
| 1972 | 12月 | 御殿場工場を新設 | 11月 | 多摩川アートラインプロジェクトの実行委員会が メセナアワードにおいて地域ネットワーク賞を受賞 本社で「印刷のいろは展」を開催開始 (以降毎年開催) | |
| 1999 | 11月 | ISO9001 認証を取得 (2011 年に返上) | 2010 | 1月 | 太陽光発電装置から得られる環境価値を エナジーグリーン株式会社と契約し グリーン電力証書化を開始 |
| 2000 | 8月 | 第一回エンタテインメント・パッケージアワード 公募開始 | 3月 | 御殿場工場に CTP 現像廃液を 8 分の 1 にろ過する装置を導入 Japan Color 認証制度標準印刷認証 取得 | |
| | 9月 | オリジナルパッケージ POPMANBOO、DVDARTS 販売開始 | 9月 | 御殿場工場が日印産連主催の 印刷産業環境優良工場表彰制度の 経済産業大臣賞を受賞 | |
| 2001 | 10月 | 本社に環境委員会を設置 | 10月 | 本社でも電力削減を目的とした エコエコプロジェクトを実施 | |
| | 7月 | 印刷 OEM 研究会を開始 | 12月 | MJG 常設展チラシをカーボンフットプリント 認定製品とした。定期発行のチラシに CFP マークを 掲載 (2012 年 12 月まで) | |
| 2002 | 3月 | リコーグループ環境マネジメントシステム登録取得 | | MUSICSHELF に掲載のプレイリスト 500 件が ヤマハミュージックメディア様より本として発売 | |
| | 7月 | スーツ着用時のノーネクタイ化開始 | 2011 | 12月 | CTP 版を富士フィルム様の クローズドループリサイクルシステムにより リサイクル開始 Japan Color 認証制度マッピング認証を取得 |
| 2003 | 1月 | ISO14001 認証を本社サイトで取得 | 2012 | 5月 | 御殿場工場にて CTP 現像廃液ろ過水の循環利用開始 本社にデジタル印刷機 Indigo と関連加工設備を導入 |
| | 3月 | 本社にゴミ圧縮減容機導入 | 2013 | 1月 | 小山工場稼働開始 |
| | 5月 | 本社に CTP1 台導入 | 7月 | 株式会社廣済堂様と資本業務提携 | |
| | 7月 | 本社にて周辺地域清掃活動のグリーンデー開始 環境報告書発行開始 | 8月 | 御殿場工場の印刷機が全て UV 方式となる | |
| | 9月 | 御殿場工場新工場操業開始 | 2014 | 9月 | 宇都宮工場稼働開始 |
| 2004 | 10月 | 雪谷法人会主催の多摩川河川敷清掃活動に 参加開始 (以後毎年参加) | 10月 | 大口工場稼働開始 | |
| 2004 | 1月 | ISO14001 認証を御殿場サイトにも拡大取得 | 11月 | (株) ワールドライブラリーにて絵本事業開始 | |
| | 9月 | OEM 研究会が NPO 法人となる | 2016 | 1月 | 小山工場を宇都宮工場に併合 |
| | 10月 | 御殿場工場にて CTP 運用開始 | 9月 | 大口工場が軟包装衛生協議会工場認定を取得 | |
| 2005 | 2月 | 本社にて BS7799/ISMS 認証を取得 | 7月 | 御殿場工場にデジタル印刷機を導入 | |
| | 3月 | FSC® COC 認証を取得 | 2017 | 1月 | 大口工場に軟包装対応のデジタル印刷機を導入 |
| | 4月 | 御殿場工場にて湿し水ろ過装置導入 | 5月 | 御殿場、本社で Japan Color 認証制度 デジタル印刷認証取得 | |
| 2006 | 5月 | 音楽発見サイト「MUSIC SHELF」オープン | | | |
| | 9月 | 御殿場工場が日印産連グリーンプリンティング 認定工場となる (本社は 2009 年 9 月に認定取得) | | | |
| | 12月 | 本社建替えのため一時的に川崎市高津区に移転 | | | |
| 2007 | 5月 | 御殿場工場敷地内にケナフを植栽開始 (以後毎年植栽) | | | |
| | 6月 | トキのビオトープ作り佐渡島ツアー開始 | | | |
| 2008 | 1月 | 御殿場工場に太陽光発電装置 (10kw) 設置 | | | |
| | 4月 | ISO12647-2(Fogra) 認証を取得 | | | |
| | 5月 | 本社新社屋操業開始、 同時に太陽光発電装置 (10kw) 設置 | | | |
| | 7月 | 御殿場工場に太陽光発電装置 (10kw) 追加設置 | | | |
| | 9月 | 御殿場工場が日印産連主催の印刷産業環境優良工場 表彰制度の経済産業省商務情報政策局長賞を受賞 | | | |
| | 12月 | ISO12647-2(Fogra) 認証をプリプレス部門でも取得 | | | |



KINYOSHA PRINTING CO., LTD.

<http://www.kinyosha.co.jp>



P12C00113

当社は、印刷版のクロードリサイクルシステムに参加し環境負荷削減に貢献しています。



この印刷物は、日印産連「オフセット印刷サービス」グリーン基準に適合した印刷資材を使用して、グリーンプリンティング認定工場が印刷した環境配慮型製品です。
印刷用紙はFSC® 森林認証紙を使用しており、製本加工は「古紙リサイクル適性ランクリスト」のリサイクルランクAである計金綴じを採用しています。

より多くの人へ適切に情報を伝えられるよう配慮したユニバーサルデザインフォントを採用しています。空間に余裕のある文字で視認性・可読性に優れており、誤読を防ぐシンプルな形状で読みやすさと高いデザイン性を備えています。見えにくい条件下での検証を繰り返すことで、視力や環境に左右されることなく幅広い年齢の方にとって認識しやすいよう設計されています。

